

砂田が丘通信

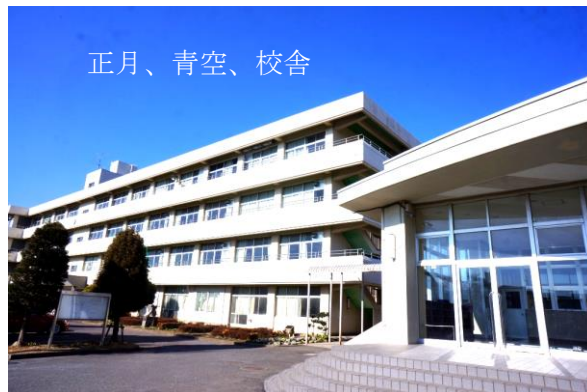
第26号

平成27年(2015年)1月8日(木)

秦野市立大根中学校長

新年明けましておめでとうございます

平成27年が始まりました。本年は12支の中の8番目にあたる「未年」、(毎年やっていることですが)年頭に当たり、「未年」について調べたことをご紹介しますと…「未」は、時刻については「午後2時を中心とする約2時間」を指し、時の鐘を鳴らしていた時代には「鐘8つ」でした。3時を「おやつ」の時間とするのは、ここから(「8つ」→「2~3時」)きています。方角は南南西よりやや北よりを指し、「未」の意味とし



ては、「植物がうっそうと茂って暗く覆うこと」あるいは「果実が熟して滋味が生じた状態」を表しているそうです。(覚えやすくするために動物の羊が割り当てられたそうですが、その意味は分かりません。)羊は群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされています。今年1年が、「平和」で、「安心」の年になることを心より祈念したいと思います。

本年もよろしくお祈りします。



今年は戦後70年(始業式「校長の話」より)

今年を表現する言葉、それはいくつかあります。「平成27年」、「2015年」、「ひつじ年」、そして「戦後70年」であり、「秦野市制60年」でもあります。

特に私が意識したいのは「戦後70年」です。女優の吉永小百合さんが、正月のNHK番組の中でこうおっしゃっていました。

「これからもずっと“戦後”であり続けてほしい。」

ご存知の方も多いと思いますが、吉永小百合さんは、終戦の年昭和20年3月の生まれで、戦争をテーマとした映画やドラマに出演したことをきっかけに、1986年からは「原爆詩」の朗読を始め、それ以降30年にわたって国内外で朗読会を続けられています。(東日本大震災以降は、原発事故被災者の詩の朗読も併せて行っていらっしゃいます。)



「戦後」という表現の基点となる「戦争」があった事実に戻り、見つめながら、「平和」の意味を考えることをずっと続けてほしい。そのためにも「戦後」であり続けてほしい。…素晴らしい言葉だと思います。

17歳でノーベル平和賞を受賞したパキスタンのマララ・ユスフザイさんは、12月10日の受賞演

説で次のようなスピーチをしました。

「なぜ「強い」といわれる国々は、戦争を生み出す力がとてもあるのに、平和をもたらすことにかけては弱いのでしょうか。なぜ、銃を与えることはとても簡単なのに、本を与えることはとても難しいのでしょうか。なぜ戦車をつくることはとても簡単で、学校を建てることはとても難しいのでしょうか。」

「男の子や女の子が子供時代を工場で過ごすのも、もうこれで終わりにしましょう。女の子が幼いうちに強制的に結婚させられることも、戦争で子供の命が失われることも、子供が学校に通えないことも、これで終わりにしましょう。私たちが終わらせましょう。この「終わり」を始めましょう。今、ここから、ともに「終わり」を始めましょう。」



12月下旬、広島に行く機会がありました。半日にわたって原爆ドームや平和記念資料館をはじめ平和公園内の施設を巡りました。戦争(原爆)による身体の傷、心の傷を抱えながら生きている人たちは今もいます。世界を見渡せば、マララさんが指摘するように、紛争地域は数多くあり、その中には簡単に人の命が失われる状況や非人権的な状況が存在しています。



「戦後」を見つめる1年にしてほしい、そう思います。



本日始業式での表彰伝達です

「女子バレーボール大会」

【南が丘杯】<第3位>大根中

【アイリス杯】<優勝>大根中 優秀選手賞

【ビッググラス杯】<優勝>大根中<最優秀選手賞>
<御嶽賞>(最優秀セッター賞)

【えぼし麻呂杯】<準優勝>大根中

【秦野市中学校総合体育大会】バスケットボールの部

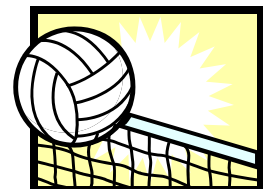
<優秀選手賞>

【秦野市中学校冬季強化大会やまびこカップ】女子の部<3位>大根中

【秦野市中学校体育大会】柔道男子団体の部<3位>大根中

男子個人<1位> <3位>

おめでとうございます。



では、また。